

◎ 山里の危機

6月末の金曜日、大和高原を貫く自動車専用道路のインターチェンジ、真っ黒な土状のものをドッサリ積んだダンプカーが一般道に20台以上もずらっとならんでいる。異常な光景。4～5月の平日、一日100台の黒い土砂が搬入されているのです。



◎ 一体何が起きているのか？

山の中へ入って行く順番を、ずらっと並んで待っている。

1. ヒノキの山林が切り開かれた。
2. きれいな「真砂土」を掘り出して販売。
3. 「真砂土」を掘り出した穴の中に真っ黒な土砂(?)を入れている。

以上の作業で黒い土砂を大和高原の山林に埋め込み、業者は莫大な利益を得ているのです。下の写真。



◎ 何故このようなことが起きるのか？
何故かという、全ては

「お山の杉の子 顔出して ハイハイお日様こんにちは」
という戦後復興期、日本の落葉広葉樹が伐採され、スギ・ヒノキの針葉樹林へと人工的に山の姿を変えられたことに
全ては起因するのです。

◎ 大地主はスギ・ヒノキの収益で

大金持ちに、しかし・・・

スギ・ヒノキの山林をもつ大地主は、戦後日本の復興と共に大金持ちに。しかし1ドル360円が1ドル80円にもなる時代がやって来ると、外国の木材が多量に輸入されるようになり、日本の木材は二束三文になってしまいました。

昨日まで何もしなくても勝手にお金が入ってきた土地長者の人たちは、自分の才能で生きていくしか道が無くなってしまいました。毎年、多額の固定資産税支払いに追われることになったのです。

父や祖父の世代に作り上げた大きなお屋敷・庭園も、山林と共に売り払わなければ固定資産税を支払えないのです。都会の地主が固定資産税や相続税を支払うために土地や家屋を手放すように……………。

◎ 土地業者に渡った山林はどうなるのか？

一度、山里の人たちが大切に作ってきた山林が土地業者の手に渡れば、誰がどのように土地を利用するか、その保証はありません。

◎ 土地を買った業者は「太陽光発電業者」？

上記の写真の土地を買って黒い土砂をどんどん搬入している業者は、自分たちのことを「太陽光発電業者」と言っています。

1. 一体どこに太陽光パネルがあるのでしょうか？

2. 一体どこで関西電力の電柱に電気を繋ぐのでしょうか？

2021年現在、太陽光発電所はほとんど新設出来ない状況です。50kW未満の規模の発電所は様々な制約で縛られ、新設はほぼ無理な状況です。50kW以上の規模については、

「送電線がありません。」

という関西電力の返事。私が業者を通じて、200kW規模で新設の問い合わせをした結果がこれでした。

大手S社の社員は、

「現在、奈良県下で太陽光発電所の新設は、ほぼ無理です。」

と言う。

◎ 今後 どうなるのか？

搬入された黒い土は、どうなるのか？

太陽光発電をする業者ということであるが、現在黒い土を運び込んでいる姿を見せているだけ……。